

保健医療福祉専門職の「現任教育」ニーズ

A Study on Practical Education and Training for Social Workers and Public Health Nurses

横山正博 加登田恵子 草平武志 正司明美

Masahiro YOKOYAMA, Keiko KATODA, Takeshi KUSAHIRA and Akemi SHOJI

1. 目的

わが国の社会福祉をめぐる動向は、社会福祉基礎構造改革あるいは介護保険制度の導入により、さまざまな面での変革が推し進められ、それに呼応する形での実践のありようも問われている¹⁾²⁾。保健医療福祉専門職の質の向上がまさに問われている時代でもある。保健医療福祉専門職の質は、彼らを養成する高等専門教育の内容に影響される一方で、「現任教育」の内容にも大きく影響されると考えられる³⁾。

「現任教育」は、各専門職の団体、職場、あるいは公的機関による研修などその様態はさまざまである。一方、これらの従来型の研修形態とは別に、大学院レベルで専門的な知識・技能の力量を高めるといった形態も増加傾向にあると考えられる。筆者らが所属する山口県立大学も社会人を積極的に受け入れ、その専門的な知識技能の力量を高めるために、夜間に大学院の授業科目を開講している。

このような状況の中、保健医療福祉専門職はどのような現任研修を望んでいるのか、あるいは「現任教育」の一環として大学院教育に何を期待しているのかを明らかにし、今後の保健医療福祉専門職の「現任教育」ニーズに対応する「現任教育」のあり方、資質向上、技量拡大のための環境条件、体系化、大学院教育のあり方を検討する必要があると思われる。

これらの課題については、筆者らがこれらの現任研修や大学院教育に携わっていることから大学人としての地域貢献という役割を果たすべきであると考えている。

以上のことを踏まえて、山口県の保健医療福祉専門職の「現任教育」ニーズを明らかにし、どのような地域貢献ができるか、あるいは地域の大学院としてどのような地域貢献ができるかという観点から、山口県在住の保健医療福祉専門職に対して、質問紙調査をし、その「現任教育」のあり方、体系化、大学院教育のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的とした。

2. 方法

(1) 調査対象

山口県社会福祉士会（以下、「福祉士会」）、山口県看護協会保健師職能委員会（以下、「保健師会」）、山口県医療社会事業協会（以下、「医療事業協会」）、山口県精神保健福祉士会（以下、「精神保健福祉士会」）に協力を依頼し、各会の名簿を基に「福祉士会」及び「保健師会」からは各々100名、「医療事業協会」及び「精神保健福祉士会」からは各々50名を無作為抽出した。

(2) 調査方法

対象者全員に郵送留置法による質問紙調査を実施した。実施した時期は、2002年2月である。回収数は300名中200名であり、回収率は66.7%であった。

(3) 調査内容

調査内容は、①基本属性、②専門職教育と「現任教育」の実態、③専門職の社会的評価、④現任研修のニーズ及び⑤山口県立大学に対する現任研修のニーズの5項目の23個の質問から構成されている。

(4) データの処理

統計解析には、SPSS統計ソフトを用い、各項目ごとに単純集計するとともに、資格別及び職種別にクロス集計を行った。資格別では、社会福祉士、精神保健福祉士及び保健師を対象とし、職種別では医療ソーシャルワーカー及び精神科ソーシャルワーカーを対象とし、再掲値として処理した。社会福祉士は93名(46.5)、保健師が68名(34.0%)及び精神保健福祉士は31名(15.5%)であり、医療ソーシャルワーカーは15名(7.5%)及び精神科ソーシャルワーカーは24名(12.0%)であった。

3. 結果と考察

(1) 基本属性

基本属性について、表1に示した。

年齢構成では、医療ソーシャルワーカーはほとんどが20歳代であり、精神科ソーシャルワーカーは、20歳代後半と30歳代に集中しており、全体の平均と比較すると低い結果となった。

最終学歴は、社会福祉士は約8割が大学卒業であった。保健師はほとんどが保健師養成施設卒業と推測された。精神保健福祉士及び精神科ソーシャルワーカーは大学卒業と精神保健福祉士養成施設卒業とにほぼ2分された。

勤務施設は、社会福祉士の3割弱が老人施設に勤務していたが、多様な施設・機関に勤務していた。保健師では、その性格上行政機関の勤務が9割であった。精神保健福祉士では、約5割が病院・医療施設に勤務していた。

現職の勤務年数は、保健師が11.1±8.2年ともっとも長く、精神科ソーシャルワーカーが4.0±3.0年と最も短かった。

転職経験は、保健師と医療ソーシャルワーカーが全体と比べて少なかった。

なお、社会福祉士、保健師及び精神保健福祉士別の主たる職種について、表2に示した。また、医療ソーシャルワーカー及び精神科ソーシャルワーカーが取得した資格・免許について表3に示した。

(2) 専門職教育と「現任教育」の実態

「現在の仕事に必要な専門知識や技能を主にどこで身に付けたか」の回答を表4に示した。各資格及び職種とも、「実務経験の中から自分で」、「講習会・研修会に派遣」及び「自主的な研究会・講習会」が上位項目としてあった。実務を基本に、自主的な研究会も含めて何らかの研修会等に参加しながら知識・技能を身に付けていることが推測された。「実務経験の中から」が特に割合として高かったことから、実務経験の中で身に付けた知識や技能が実践の中でどの程度適切に生かされているかという検証作業をしていく研修の必要性も示唆されていると考えられる。特に医療ソーシャルワーカーは、「実務経験の中から自分で」が86.7%及び「自発的な研究会や講習会」が73.3%と他に比較して割合として高く、実務の中から習得した知識・技能について積極的に自己評価していこうとする姿勢を読み取ることが可能である。また、保健師は、「講習会・研修会に派遣されて」が割合として最も高かった。

「現在の職場で、専門性を高めるための研究・学習の機会はあるか」の回答を表5に示した。各資格及び職種とも、年に数回程度、「行政・社協主催の研修会」、「職能団体主催の研修会」、「職場以外の個人的勉強会」、「職場内の研修会」及び「学会・研究会」の機会があることがわかった。この結果については、秋山が1995年に社会福祉士を対象とした調査結果⁴⁾とほぼ一致していたが、今回の調査の方がより研修の機会をもっていた。

また特に、社会福祉士及び医療ソーシャルワーカーは「職場以外の個人的勉強会」の機会が顕著であった。精神保健福祉士及び精神科ソーシャルワーカーは「職能団体主催の研修会」の機会が顕著であった。保健師は行政職であることから、「行政・社協主催の研修会」の機会が顕著であった。

一方、各資格及び職種とも、「大学等教育機関での研修」及び「海外視察・研修」の機会はほとんどなかった。

「2011年度中に上述の研修の機会を利用したか」

表1. 基本属性

単位：人、%

		全体		社会福祉士		保健師		精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)	
性別	男	58	29.0	40	43.0	0	0.0	11	35.5	6	40.0	9	37.5
	女	142	71.0	53	57.0	68	100.0	20	64.5	9	60.0	15	62.5
	計	200	100.0	93	100.0	68	100.0	31	100	15	100.0	24	100
年齢構成	20-24	16	8.0	7	7.5	5	7.4	2	6.5	4	26.7	2	8.3
	25-29	46	23.1	24	25.8	8	11.8	7	22.6	8	53.3	10	41.7
	30-34	38	19.1	19	20.4	13	19.1	9	29.0	1	6.7	8	33.3
	35-39	25	12.6	8	8.6	14	20.6	7	22.6	0	0.0	1	4.2
	40-44	22	11.1	12	12.9	9	13.2	1	3.2	0	0.0	1	4.2
	45-49	22	11.1	9	9.7	9	13.2	2	6.5	1	6.7	1	4.2
	50-54	17	8.5	9	9.7	4	5.9	1	3.2	0	0.0	1	4.2
	55-59	11	5.5	4	4.3	5	7.4	2	6.5	1	6.7	0	0
	60-	2	1.0	1	1.1	1	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0
	計	199	100.0	93	100.0	68	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0
平均	標準偏差	36.9	10.3	36.5	10.4	38.7	9.7	34.7	9.2	29.4	9.7	31.1	7.5
最終学歴	修士課程	2	1.0	2	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
	大学	96	49.0	70	78.7	4	6.0	10	34.5	12	80.0	9	40.9
	短大	6	3.1	4	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.5
	専門学校	27	13.8	9	10.1	13	19.4	4	13.8	1	1.0	3	13.6
	保健師養成校	49	25.0	0	0.0	49	73.1	6	20.7	0	0.0	0	0
	精保士養成校	9	4.6	1	1.1	0	0.0	8	27.6	0	0.0	8	36.4
	その他	7	3.6	3	3.4	1	1.5	1	3.4	2	2.0	1	4.5
	計	196	100.0	89	100.0	67	100.0	29	100.0	15	100.0	22	100.0
勤務施設	行政機関	69	34.7	8	8.7	61	89.7	6	19.4	0	0.0	0	0
	病院・医療機関	39	19.6	17	18.5	0	0.0	16	51.6	15	100.0	16	66.7
	生活保護施設	1	0.5	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
	老人施設	32	16.1	25	27.2	1	1.5	2	6.5	0	0.0	0	0
	児童福祉施設	4	2.0	3	3.3	1	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0
	身障福祉施設	3	1.5	3	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
	知障福祉施設	11	5.5	10	10.9	1	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0
	社協	14	7.0	14	15.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
	その他	26	13.1	11	12.0	4	5.9	7	22.6	0	0.0	8	33.3
計	199	100.0	92	100.0	68	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0	
勤務形態	常勤	195	98.0	90	97.8	66	97.1	30	96.8	14	93.3	24	100.0
	非常勤	4	2.0	2	2.2	2	2.9	1	3.2	1	6.7	0	0
	計	199	100.0	92	100.0	68	100.0	31	100.0	100.0	100.0	24	100.0
現職の勤続年数構成	3年未満	56	28.3	27	29.0	14	20.6	14	48.3	8	53.3	9	39.1
	3-5年未満	37	18.7	19	20.4	12	17.6	6	20.7	1	6.7	8	34.8
	5-10年未満	41	20.7	23	24.7	7	10.3	4	13.8	4	26.7	5	21.7
	10-15年未満	19	9.6	7	7.5	12	17.6	1	3.4	0	0.0	0	0
	15-20年未満	16	8.1	5	5.4	10	14.7	1	3.4	1	6.7	1	1
	20年以上	29	14.6	12	12.9	13	19.1	3	10.3	1	6.7	0	0
	計	198	100.0	93	100.0	68	100.0	29	100.0	15	100.0	23	100.0
平均	標準偏差	11.3	9.5	7.8	8.2	11.1	8.2	6.0	8.8	5.4	7.9	4	3
転職経験	あり	84	57.6	47	51.1	21	30.9	13	43.3	5	33.3	12	52.2
	なし	114	42.4	45	48.9	47	69.1	17	56.7	10	66.7	11	47.8
	計	198	100.0	92	100.0	68	100.0	30	100.0	15	100.0	23	100.0
転職経験	1回	45	53.6	22	45.8	14	66.7	8	61.5	4	80.0	6	50.0
	2回	19	22.6	13	27.1	3	14.3	2	15.4	1	20.0	3	25.0
	3回以上	20	23.8	13	27.1	4	19.0	3	23.1	0	0.0	3	25.0
	計	84	100.0	48	100.0	21	100.0	13	100.0	5	100.0	12	100.0
平均	標準偏差	1.9	1.3	1.4	0.5	1.8	0.4	1.8	0.4	1.2	0.5	1.8	1

の回答を表6に示した。各資格及び職種とも、「行政・社協主催の研修会」、「職能団体主催の研修会」、「職場以外の個人的勉強会」、「職場内の研

表2. 資格別にみた主職種 単位：人、%

職 種	社会福祉士		保健師		精神保健福祉士	
事務員	15	16.7	0	0.0	0	0.0
保健師	0	0.0	64	97.0	6	19.4
保育士	1	1.1	0	0.0	0	0.0
指導員	14	15.6	0	0.0	0	0.0
相談員	16	17.8	0	0.0	1	3.2
MSW	8	8.9	0	0.0	1	3.2
PSW	6	6.7	0	0.0	18	58.1
介護職員	7	7.8	0	0.0	0	0.0
介護支援専門員	10	11.1	1	1.5	1	3.2
教員	4	4.4	0	0.0	1	3.2
その他	9	10.0	1	1.5	1	3.2
計	90	100.0	66	100.0	31	100.0

表3. MSW及びPSWの取得資格・免許 単位：人、%

資格・免許	MSW		PSW	
社会福祉士	8	53.3	6	25
社会福祉主事	13	86.7	13.0	54.2
精神保健福祉士	1	6.7	18	75.0
保育士	2	13.3	1	4.2
介護支援専門員	1	6.7	3	12.5
その他	2	13.3	3	12.5

表4. 現在の仕事に必要な専門的知識や技能を主にどこで身に付けたか(複数回答) 単位：人、%

項 目	全 体		社会福祉士		保健師		精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)	
大学院	2	1.0	2	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
大学	75	37.9	56	②60.9	3	4.5	12	38.7	12	②80.0	10	41.7
短大	12	6.1	3	3.3	9	13.4	1	3.2	0	0.0	0	0
専門学校	53	26.8	15	16.3	31	46.3	6	19.4	1	6.7	5	20.8
大学等の聴講	5	2.5	3	3.3	0	0.0	1	3.2	1	6.7	1	4.2
通信教育	41	20.7	35	38.0	4	6.0	2	6.5	3	20.0	2	8.3
養成施設	44	22.2	9	9.8	29	43.3	12	38.7	2	13.3	5	20.8
職場で上司の指導	75	37.9	30	32.6	26	38.8	16	③51.6	6	40.0	14	②58.3
実務の中で自分で	136	①68.7	66	①71.7	40	②59.7	21	①67.7	13	①86.7	15	①62.5
友人・先輩	59	29.8	29	31.5	19	28.4	13	41.9	7	46.7	7	29.2
講習会に派遣	116	②58.6	51	③55.4	43	①64.2	17	②54.8	7	46.7	13	③54.2
自発的に講習会	97	③49.0	44	47.8	34	③50.7	17	②54.8	11	③73.3	9	37.5
ボランティア活動	26	13.1	3	3.3	6	9.0	1	3.2	3	20.0	3	12.5

丸付き数字は上位3番目までの順位を示す

修会」及び「学会・研究会」に、ほぼ6割以上が最低年に1日以上利用していた。また研修の機会に対する利用は、およそ1割から2割程度少ないことがわかった。この結果についても秋山らの調査結果⁴⁾とほぼ一致していたが、今回の調査の方がより研修を利用していた。

特に保健師が年に「3～6日間」、「行政・社協主催の研修会」を利用し、精神保健福祉士及び精神科ソーシャルワーカーが年に「3～6日間」、「職能団体主催の研修会」を利用した人が比較的多かったのが特徴的であり、研修の機会を比較的に利用していると推測できた。

(3) 保健・福祉にかかわる専門職の社会的評価

「保健・福祉に関わる専門職は他の専門職に比べて社会的評価が低い理由」の回答を表7に示した。各資格及び職種とも、「固有の専門性が実務上見出しにくい」、「資格・免許や身分制度が未確立」及び「一般の人々の認識が不十分」が上位項目としてあがった。これらの結果は、自らの資格・職種に対する自己評価としての結果と推測できる。また、先述の秋山らの調査結果⁴⁾とおおむね一致していた。

「固有の専門性が実務上見出しにくい」については、医療ソーシャルワーカーが85.7%と最も高かった。つまり、わが国の場合医療ソーシャルワ

表5. 研修・学習の機会

単位：人、%

研修形態	頻度	全体		社会福祉士		保健師		精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)	
行政・社協主催	1年に数回	138	73.4	61	69.3	59	90.8	19	65.5	9	64.3	15	62.5
	1年に1回	21	11.2	13	14.8	2	3.1	4	13.8	1	7.1	3	12.5
	数年に1回	4	2.1	0	0.0	2	3.1	1	3.4	1	7.1	1	4.2
	ない	25	13.3	14	15.9	2	3.1	5	17.2	3	21.4	5	20.8
	計	188	100.0	88	100.0	65	100.0	29	100.0	14	100.0	24	100.0
職能団体主催	1年に数回	129	67.9	57	65.5	49	72.1	23	82.1	10	71.4	18	78.3
	1年に1回	31	16.3	13	14.9	15	22.1	2	7.1	1	7.1	1	4.3
	数年に1回	3	1.6	1	1.1	2	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	ない	27	14.2	16	18.4	2	2.9	3	10.7	3	21.4	4	17.4
	計	190	100.0	87	100.0	68	100.0	28	100.0	14	100.0	23	100.0
職場内研修会	1年に数回	103	55.1	46	51.7	38	58.5	18	66.7	9	64.3	14	60.9
	1年に1回	14	7.5	9	10.1	3	4.6	1	3.7	2	14.3	0	0.0
	数年に1回	4	2.1	4	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	ない	66	35.3	30	33.7	24	36.9	8	29.6	3	21.4	9	39.1
	計	187	100.0	89	100.0	65	100.0	27	100.0	14	100.0	23	100.0
学会・研究会	1年に数回	88	48.6	35	42.7	35	53.0	18	62.1	7	50.0	10	45.5
	1年に1回	32	17.7	13	15.9	12	18.2	3	10.3	3	21.4	4	18.2
	数年に1回	23	12.7	8	9.8	13	19.7	3	10.3	1	7.1	2	9.1
	ない	38	21.0	26	31.7	6	9.1	5	17.2	3	21.4	6	27.3
	計	181	100.0	82	100.0	66	100.0	29	100.0	14	100.0	22	100.0
個人的勉強会	1年に数回	128	69.2	66	76.7	39	60.0	18	62.069	14	93.3	14	60.9
	1年に1回	9	4.9	3	3.5	6	9.2	0	0.0	1	6.7	0	0.0
	数年に1回	5	2.7	2	2.3	3	4.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	ない	43	23.2	15	17.4	17	26.2	11	37.931	0	0.0	9	39.1
	計	185	100.0	86	100.0	65	100.0	29	100	15	100.0	23	100.0
他職場での研修	1年に数回	21	12.3	5	6.4	8	13.1	4	14.8	5	35.7	2	9.1
	1年に1回	19	11.1	7	9.0	11	18.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	数年に1回	11	6.4	5	6.4	6	9.8	1	3.7	0	0.0	0	0.0
	ない	120	70.2	61	78.2	36	59.0	22	81.5	9	64.3	20	91.0
	計	171	100.0	78	100.0	61	100.0	27	100.0	14	100.0	22	100.0
大学での聴講	1年に数回	9	5.4	5	6.5	2	3.3	1	4.0	0	0.0	2	9.1
	1年に1回	3	1.8	2	2.6	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	数年に1回	8	4.8	2	2.6	6	9.8	1	4.0	0	0.0	0	0.0
	ない	148	88.1	68	88.3	52	85.2	23	92.0	14	100.0	20	91.0
	計	168	100.0	77	100.0	61	100.0	25	100.0	14	100.0	22	100.0
国内機関研修	1年に数回	16	9.3	6	7.6	6	9.7	2	8.0	3	21.4	2	9.1
	1年に1回	11	6.4	3	3.8	6	9.7	2	8.0	1	7.1	1	4.5
	数年に1回	19	11.0	7	8.9	10	16.1	2	8.0	0	0.0	1	4.5
	ない	126	73.3	63	79.7	40	64.5	19	76.0	10	71.4	18	81.9
	計	172	100.0	79	100.0	62	100.0	25	100.0	14	100.0	22	100.0
海外視察・研修	1年に数回	0	0.0	1	1.3	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	1年に1回	0	0.0	1	1.3	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	数年に1回	7	4.1	2	2.6	4	6.5	1	4.0	0	0.0	0	0.0
	ない	160	94.1	75	96.2	57	91.9	24	96.0	14	100.0	0	0.0
	計	170	100.0	78	100.0	62	100.0	25	100.0	14	100.0	22	100.0

表6. 研修・学習の利用頻度

単位：人、%

研修形態	頻度	全体	社会福祉士	保健師	精神保健福祉士	MSW(再掲)	PSW(再掲)
行政・社協主催	7日以上	33 17.9	11 12.9	19 29.2	1 3.7	3 23.1	0 0.0
	3~6日間	53 28.8	18 23.1	29 44.6	6 22.2	1 7.7	2 10.0
	1~2日間	59 32.1	33 38.8	13 20.0	13 48.1	4 30.8	12 60.0
	しなかった	39 21.2	23 29.5	4 6.2	7 25.9	5 38.5	6 30.0
	計	184 100.0	85 100.0	65 100.0	27 100.0	13 100.0	20 100.0
職能団体主催	7日以上	17 9.2	9 10.7	5 7.5	4 14.3	4 28.6	2 9.5
	3~6日間	54 29.3	26 31.0	17 25.4	12 42.9	5 35.7	9 42.9
	1~2日間	73 39.7	30 35.7	34 50.7	8 28.6	2 14.3	6 28.6
	しなかった	40 21.7	19 22.6	11 16.4	4 14.3	3 21.4	4 19.0
	計	184 100.0	84 100.0	67 100.0	28 100.0	14 100.0	21 100.0
職場内研修会	7日以上	28 15.5	16 18.8	6 19.0	4 16.0	5 35.7	3 15.0
	3~6日間	29 16.0	12 14.1	15 12.1	4 16.0	2 14.3	2 10.0
	1~2日間	54 29.8	21 24.7	21 28.4	9 36.0	3 21.4	7 35.0
	しなかった	70 38.7	36 42.4	23 40.5	8 32.0	4 28.6	8 40.0
	計	181 100.0	85 100.0	65 100.0	25 100.0	14 100.0	20 100.0
学会・研究会	7日以上	12 6.7	4 5.0	4 6.0	3 10.3	2 15.4	1 4.8
	3~6日間	27 15.0	11 13.8	14 20.9	5 17.2	3 23.1	2 9.5
	1~2日間	73 40.6	29 36.3	28 41.8	9 31.0	5 38.5	7 33.3
	しなかった	68 37.8	36 45.0	21 31.3	12 41.4	3 23.1	11 52.4
	計	180 100.0	80 100.0	67 100.0	29 100.0	13 100.0	21 100.0
個人的勉強会	7日以上	41 23.0	25 30.1	9 14.1	4 14.8	9 60.0	4 19.0
	3~6日間	38 21.3	22 26.5	12 18.8	7 25.9	1 6.7	5 23.8
	1~2日間	39 21.9	15 18.1	17 26.6	4 14.8	3 20.0	3 14.3
	しなかった	60 33.7	21 25.3	26 40.6	12 44.4	2 13.3	9 42.9
	計	178 100.0	83 100.0	64 100.0	27 100.0	15 100.0	21 100.0
他職場での研修	7日以上	4 2.4	3 4.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	0 0.0
	3~6日間	10 6.0	2 2.7	4 6.6	2 8.0	1 7.1	1 5.0
	1~2日間	19 11.4	2 2.7	13 21.3	4 16.0	1 7.1	2 10.0
	しなかった	134 80.2	68 90.7	44 72.1	19 76.0	10 71.4	17 85.0
	計	167 100.0	75 100.0	61 100.0	25 100.0	14 100.0	20 100.0
大学での聴講	7日以上	6 3.6	4 5.3	0 0.0	1 4.3	0 0.0	1 5.0
	3~6日間	2 1.2	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0
	1~2日間	8 4.8	3 3.9	5 8.2	1 4.3	0 0.0	0 0.0
	しなかった	150 90.4	67 88.2	56 91.8	21 91.3	14 100.0	18 90.0
	計	166 100.0	76 100.0	61 100.0	23 100.0	14 100.0	20 100.0
国内機関研修	7日以上	3 1.8	0 0.0	2 3.3	1 4.3	0 0.0	0 0.0
	3~6日間	6 3.6	2 2.7	2 3.3	2 8.7	1 7.1	2 10.0
	1~2日間	17 10.3	5 6.7	10 16.7	2 8.7	1 7.1	1 5.0
	しなかった	139 84.2	7 9.3	46 76.7	18 78.3	12 85.7	17 85.0
	計	165 100.0	75 100.0	60 100.0	23 100.0	14 100.0	20 100.0
海外視察・研修	7日以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0	0 0.0	0 0.0
	3~6日間	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0	0 0.0	0 0.0
	1~2日間	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0	0 0.0	0 0.0
	しなかった	164 100.0	74 100.0	61 100.0	23 100.0	14 14.0	20 100.0
	計	164 100.0	74 100.0	61 100.0	23 100.0	14 14.0	20 100.0

表7. 他の専門職に比べて社会的評価が低い理由

理 由	全 体	社会福祉士	保 健 師
福祉的援助の重要性に対する一般の人々の認識が不十分	74 ②39.4	29 ③33.7	17 ②26.6
保健・福祉の施策・制度が十分でない	27 14.4	8 9.3	10 15.6
社会福祉固有の専門性が実務上見出しにくい	112 ①59.6	63 ①73.3	26 ①40.6
資格・免許や身分の制度が確立していないから	61 ③32.4	40 ②46.5	13 20.3
待遇や労働条件がよくないから	37 19.7	17 19.8	11 17.2
専門職者用紙絵の機関や現任研修の場が十分整っていないから	28 14.9	13 15.1	11 17.2
福祉関係の理論が確立しておらず、科学としての水準が低いから	35 18.6	18 20.9	14 ③21.9
人生相談に似ていて、一般に誰でもできると思われるから	37 19.7	25 29.1	3 4.7
女性の従事者が多いから	11 5.9	1 1.2	10 15.6
研究団体・職能団体が弱体だから	18 9.6	12 14.0	5 7.8
特に社会的評価が低いとは思わない	17 9.0	3 3.5	9 14.1
その他	25 13.3	6 7.0	11 17.2

単位：人、%

精神保健福祉士	MSW(再掲)	PSW(再掲)
15 ①51.7	7 ③50.0	14 ①63.6
7 24.1	2 14.3	18 ③36.4
15 ①51.7	12 ①85.7	10 ②45.5
12 ②41.4	8 ②57.1	8 ③36.4
7 24.1	1 7.1	5 22.7
5 17.2	1 7.1	4 18.2
2 6.9	2 14.3	1 4.5
4 13.8	4 28.6	10 18.2
1 3.4	0 0.0	0 0.0
1 3.4	2 14.3	0 0.0
4 13.8	0 0.0	3 13.6
6 20.7	1 7.1	3 13.6

丸付き数字は上位3番目までの順位を示す

クスの歴史は浅く、医療ソーシャルワーカーの量的確保という点においても不十分であり、また資格制度に関する議論にまだ結論が得られていないという現実に対する自己評価と推測できる。次に高かったのは社会福祉士であり73.3%であった。これは、社会福祉士は業務独占ではなく名称独占であり、また従事している職種も今回の調査からもわかるように多様であり、さらに現在の社会福祉制度の変革の時期に当たりその位置づけや役割が今後さらに変化していくことが予測される⁵⁾といった背景を反映しているものと推測できる。これらのことから、医療ソーシャルワーカー及び社会福祉士については、自らその固有の専門性を明らかにしていく作業が必要であるとともに、これらの作業を研修や研究の中で行っていく必要があることを示唆しているといえよう。保健師もこの項目を第1位にあげていたが、相対的には他資格・職種と比べて低く、保健師としての固有の専門性についてはある程度認識している結果と推測できる。

「資格・免許や身分制度が未確立」については、資格制度が未確立である医療ソーシャルワーカー

が最も高く、一方業務独占であり、その資格制度の歴史も他に比べると長い保健師が低い結果となった。「一般の人々の認識が不十分」については、精神科ソーシャルワーカーが最も高く63.3%であり、また精神保健福祉士も51.7%と比較的高かった。これは、精神科ソーシャルワーカーは第3位の理由として「保健・福祉政策が十分でない」をあげており、たとえば精神保健福祉士の資格制度が1996年に施行されたことなどの精神保健福祉分野政策の遅れ、それゆえの量的確保の未成熟といったことを背景にしていると推測できる。

(4) 現任研修のニーズ

「あなたは自分の専門性を高めるためにどのような研修を受けたいか」の回答を表8に示した。各資格及び職種とも、「臨床心理学やカウンセリング等対人援助に関する知識・技能を高めたい」、「医療・保健・社会福祉の制度や施策に関する最新の情報を得たい」及び「専門職としてのアイデンティティを確立し、自信を持ちたい」が上位項目としてあがったが、割合としてはばらつきがみられた。「臨床心理学やカウンセリング等対人援助に関する知識・技能を高めたい」については、医療ソーシャルワーカーを除いたすべてが6割以上であった。これは、各資格・職種とも実際にはさまざま現場で対人援助の業務に従事しており、より研鑽を積み重ねたいという認識の現れであると推測できる。「医療・保健・福祉の制度や施策に関する最新情報を得たい」については、保健師を除いたすべてが6割以上であった。これは、最近の医療・保健・福祉をめぐる動向においてたとえば社会福祉基礎構造改革や介護保険制度の見直しなどさまざま変革の時期にあり、現場では容易にそれらの情報を得ることが困難なことを示している。中でも特に医療ソーシャルワーカーと精神科ソーシャルワーカーは8割と非常に高かった。一方保健師が50.0%と他に比べて低かったのは、行政職という立場から最新の制度政策に関する情報を得やすいことを示している。

「専門職としてのアイデンティティを確立し、自信を持ちたい」については、医療ソーシャルワ

ーカーが60.0%と最も高かった。これは、先述した社会的評価が低い理由として、医療ソーシャルワーカーが自己評価として「固有の専門性が実務上見出しにくい」を最も多くあげたことと関連があると推測できる。医療ソーシャルワーカーの場合、自己評価の結果が研修内容として緊密に結びついていると考えられ、教育的及び支持的機能を重視したスーパービジョン⁶⁾⁷⁾の必要性を示唆している。なお、「特に感じない」とした人はいなかった。

「専門性を高める研修では、どのような形態が効果的であるか」の回答を表9に示した。

研修形態ごとに「1. 効果的でない」、「3. 普通」及び「5. 大変効果的である」の5段階のリッカート法を用いて回答を求めた。各資格・職種とも「事例を中心にした演習」及び「ロールプレイなど実践力の訓練」の項目において、「効果的である」と回答した割合が高かった。各資格・職種とも現在の実践の中において、利用者に対する対処方法や効果的な援助方法を習得するという問題解決指向型の形態を望んでいることがわかった。

(5) 山口県立大学に対する現任研修のニーズ

「山口県立大学をキャリアアップの機関として活用するとしたら、どのような形態が望ましいか」の回答を表10に示した。各資格及び職種とも、「もっと気軽に授業の公開や聴講制度を実施してほしい」、「関係する専門職能団体と連携して、研修や研究を進めてほしい」、「実践的で体系的な質の高い研修を企画・実施してほしい」及び「通信制で就学期間の自由な大学院に進学したい」が上位項目としてあがった。各資格・職種とも自らの実践課題について質の高い研修・研究したいというニーズがあることが推測された。

医療ソーシャルワーカーは、精神保健福祉士の資格を取得したいと望んでいることが顕著であった。医療ソーシャルワーカーの場合、本調査においても社会福祉士の有資格者は8名(53.3%)と約半数であり、また精神保健福祉士の有資格者は1名しかおらず、さらに自らの職種について資格制度が整備されていないと合わせて考えると、精神

表8. 自分の専門性を高めるために必要な研修内容

研修内容	全 体		社会福祉士		保 健 師	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
特に必要としない	1	0.5	1	1.1	0	0.0
医療・保健・社会福祉の制度や施策に関する最新の情報を得たい	129	②64.5	69	①74.2	34	②50.0
社会学・法学・経済学などの社会理解のための基礎学問をもう少し深く学びたい	53	26.5	22	23.7	23	33.8
哲学や心理学・宗教学などの人間理解のための基礎学問をもう少し深く学びたい	75	37.5	30	32.3	32	③47.1
社会福祉士や精神保健福祉士、臨床心理士などさらに別の資格を取りたい	64	32.0	33	35.5	16	23.5
臨床心理学やカウンセリング等対人援助に関する知識・技能を高めたい	130	①65.0	67	②72.0	44	①64.7
社会調査や地域福祉計画のプランニング等社会的な援助の知識・技能を高めたい	66	33.0	30	32.3	24	35.3
「QOL論」や「地域ケア論」など今日的で学際的な学問を学びたい	40	20.0	21	22.6	10	14.7
現在やっている仕事のスーパービジョンを受けたい	71	35.5	35	37.6	18	26.5
職場のチームワークの取り方や介護の仕方を学びたい	53	26.5	26	28	17	25
今までやってきた実践の振り返りやまとめをしたい	40	20.0	12	12.9	18	26.5
管理職としてのマネージメント能力を高めたい	24	12.0	9	9.7	8	11.8
実習指導者やスーパーバイザーとしての能力を身に付けたい	39	19.5	19	20.4	11	16.2
専門職としてのアイデンティティを確立し自身をもちたい	92	③46.0	41	③44.1	32	③47.1
海外の医療・保健・福祉の状況を知り視野を広めたい	33	16.5	18	19.4	9	13.2
教育職や研究職につくための力をつけたい	16	8.0	12	12.9	2	2.9
学会や職能団体できちんと発表できる力をつけたい	34	17.0	15	16.1	13	19.1
その他	3	1.5	0	0.0	0	0.0

単位：人、%

精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)	
0	0.0	0	0.0	0	0.0
19	①61.3	12	①80.0	19	①79.2
5	16.1	4	26.7	3	12.5
12	38.7	6	40.0	7	29.2
6	19.4	10	②66.7	7	29.2
19	①61.3	8	53.3	15	②62.5
9	29.0	3	20.0	7	29.2
5	16.1	4	26.7	4	16.7
16	②51.6	9	③60.0	14	③58.3
8	25.8	5	33.3	9	37.5
9	29.0	7	46.7	3	12.5
4	12.9	1	6.7	2	8.3
7	22.6	3	20.0	5	20.8
13	③41.9	9	③60.0	14	③58.3
3	9.7	2	13.3	2	8.3
2	6.5	1	6.7	0	0.0
5	16.1	4	26.7	2	8.3
1	3.1	0.0	0.0	1	4.2

丸付き数字は上位3番目までの順位を示す

保健福祉士資格の取得志向が強く、山口県立大学という地域の高等教育機関で取得したいというニーズがあると推測できる。

「通信制で就学期間の自由な大学院に進学したい」というニーズも約半数弱あることがわかった。昼間や夜間といった形態ではなく、現在の仕事をしながら自宅で高度な知識・技能を修得したいという思いの表れであると推測できる。

「山口県立大学大学院では、社会人入学制度(24歳以上で、特に大学卒でなくとも大学を卒業したのと同等以上の学力があると認められる人の個別入学審査)を設けているのを知っているか」の回答を表11に示した。保健師が21名(30.9)と最もよく知っており、一方精神保健福祉士及び精神科ソーシャルワーカーで知っていた人は約1割強であった。

「山口県立大学大学院でキャリアアップのために何らかの教育研修を受けることに興味はあるか」の回答を表12に示した。医療ソーシャルワーカーが約9割強と高い関心を示した。先述の「山口県立大学をキャリアアップの機関として活用するとしたら、どのような形態が望ましいか」の回答で

表9. 効果的な研修形態

単位：人、%

	全 体		社会福祉士		保健師		精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)		
著名な講師 の講義	1	3	1.5	1	1.1	1	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	14	7.0	7	7.6	3	4.4	0	0.0	2	13.3	1	4.2
	3	97	48.7	49	53.3	31	45.6	18	58.1	6	40.0	12	50.0
	4	56	28.1	29	31.5	22	32.4	8	25.8	2	13.3	5	20.8
	5	29	14.6	10	10.9	11	16.2	5	16.1	5	33.3	6	25.0
合 計	199	100.0	92	100.0	68	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0	
議論を中心 にした演習	1	2	1.0	0	0.0	1	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	8	4.0	3	3.2	4	6.0	1	3.2	1	6.7	0	0.0
	3	80	40.2	36	38.7	23	34.3	12	38.7	4	26.7	11	45.8
	4	73	36.7	33	35.5	30	44.8	8	25.8	6	40.0	7	29.2
	5	36	18.1	21	22.6	9	13.4	10	32.3	4	26.7	6	25.0
合 計	199	100.0	93	100.0	67	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0	
事例研究を 中心にした 演習	1	1	0.5	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	8	4.0	3	3.2	2	3.0	1	3.2	1	6.7	1	4.2
	3	32	16.1	14	15.1	8	11.9	15	48.4	0	0.0	5	20.8
	4	97	48.7	40	43.0	44	65.7	16	51.6	7	46.7	9	37.5
	5	61	30.7	35	37.6	13	19.4	9	29.0	7	46.7	9	37.5
合 計	199	100.0	93	100.0	67	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0	
文献購読を 中心とした 演習	1	15	7.6	7	7.6	4	6.0	1	3.2	1	6.7	1	4.2
	2	57	28.8	27	29.3	20	29.9	7	22.6	4	26.7	8	33.3
	3	96	48.5	47	51.1	30	44.8	17	54.8	8	53.3	13	54.2
	4	28	14.1	9	9.8	13	19.4	6	19.4	2	13.3	2	8.3
	5	2	1.0	2	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	198	100.0	92	100.0	67	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0	
ロールプレ イなど実践 力の訓練	1	2	1.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0	1	6.7	0	0.0
	2	8	4.1	5	5.5	2	3.0	0	0.0	0	0.0	1	4.2
	3	44	22.3	14	15.4	17	25.4	9	29.0	4	26.7	6	25.0
	4	84	42.6	34	37.4	35	52.2	12	38.7	7	46.7	9	37.5
	5	59	29.9	37	40.7	13	19.4	10	32.3	3	20.0	8	33.3
合 計	197	100.0	91	100.0	67	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0	

は、大学院に進学したいという回答は必ずしも多くなかったが、精神保健福祉士資格を取得するために大学院でその機会を得たいとする人も少なからず存在することが推測された。一方、精神科ソーシャルワーカーの関心は7割弱あったが、他の資格・職異種と比較すると低かった。

「2001年度における山口県立大学大学院（健康福祉学研究科）の教育研究分野でのうち、興味や関心のあるテーマはどれか」回答を表13に示した。どの資格・職種とも、全般的には実践関係のテーマに関心を示していた。特に、「地域における保

健・福祉・福祉の連携に関する研究」が上位項目としてあがった。これは、関連の職種とどのように連携をとりながら地域ケアを進めていけばいいかという自らの現場での関心事を最も示していると推測される。特に、医療ソーシャルワーカー及び精神科ソーシャルワーカーでは約7割が関心を示しており、病院を退院後あるいは通院中の利用者の生活支援あるいはケアに対する関心と推測される。また、医療ソーシャルワーカー及び精神科ソーシャルワーカーは、「ソーシャルワークにおける援助関係論に関する研究」に対する関心も高

表10. 山口県立大学のキャリアアップの機関としての活用形態

研修内容	全体		社会福祉士		保健師	
大学院に進学したい	14	7.0	9	9.8	3	4.4
夜間の大学院に進学したい	29	14.6	17	18.5	5	7.4
通信制で就学期間の自由な大学院に進学したい	89	②44.7	44	③47.8	32	③47.1
精神保健福祉士の受験資格の取れるコースであれば進学したい	32	16.1	19	20.7	6	8.8
社会福祉士の受験資格の取れるコースであれば進学したい	9	4.5	0	0	3	4.4
もっと気軽に授業の公開や聴講制度を実施してほしい	111	①55.8	50	①54.3	47	①69.1
1週間程度の高レベルの短期集中セミナーを開いてほしい	60	30.2	31	33.7	18	26.5
毎週1日程度のスクーリングを継続してほしい	37	18.6	23	25	11	16.2
実践的で体系的な質の高い研修を企画・実施してほしい	83	③41.7	38	41.3	33	②48.5
大学教員との共同研究プロジェクトに参加したい	39	19.6	26	28.3	9	13.2
図書館や情報センターを開放してほしい	65	32.7	27	29.3	27	39.7
研究会の開催場所を提供してほしい	18	9.0	11	12	2	2.9
社会人に対する奨学金を充実してほしい	17	8.5	11	12	4	5.9
関係する専門職能団体と連携して、研修や研究を進めてほしい	89	②44.7	45	②48.9	32	③47.1
その他	9	4.5	5	5.4	4	5.9

単位：人、%

精神保健福祉士	MSW (再掲)	PSW (再掲)
1 3.3	1 6.7	1 4.3
5 16.7	1 6.7	5 21.7
11 36.7	4 26.7	10 ②43.5
1 3.3	10 ①66.7	2 8.7
1 3.3	2 13.3	2 8.7
16 ①53.3	6 40.0	11 ①47.8
7 23.3	4 26.7	5 21.7
5 16.7	3 20.0	4 17.4
12 40	8 ②53.3	8 34.8
4 13.3	2 13.3	1 4.3
13 ③43.3	7 ③46.7	7 30.4
5 16.7	6 40.0	2 8.7
1 3.3	4 26.7	2 8.7
15 ②50.0	8 ②53.3	11 ①47.8
1 3.3	0 0.0	0 0

丸付き数字は上位3番目までの順位を示す

く約6割であった。両職種ともソーシャルワーカーとしてソーシャルワークに対する高い関心が示されているといえるであろう。

以上の結果を踏まえ、大学として保健福祉医療専門職のニーズに何らかの形で応えていくことの必要性、あるいは大学院教育の内容の充実が示唆された。

4. まとめ

以上のことから次のようなことが明らかとなった。

(1) 各資格・職種とも、実務を基本に、自主的な研究会も含めて何らかの研修会等に参加しながら知識・技能を身に付けている傾向があることが推測された。このことは、実務経験の中で身に付けた知識や技能が実践の中でどの程度適切に生かされているかという検証作業をしていく研修の必要性も示唆していると考えられた。

(2) 各資格・職種とも、専門性を高めるための研修・学習の機会は一定程度確保され、またその機会に比較して利用は少ない傾向にあるが一定程度利用していることがわかった。

表11. 社会人入学制度を知っていたか

単位：人、%

	全 体		社会福祉士		保健師		精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)	
知らなかった	145	72.5	66	71.0	47	69.1	26	83.9	11	73.3	21	87.5
知っていた	55	27.5	27	29.0	21	30.9	5	16.1	4	26.7	3	12.5
計	200	100.0	93	100.0	68	100.0	31	100.0	15	100.0	24	100.0

表12. 大学院の教育研修に関心があるか

単位：人、%

	全 体		社会福祉士		保健師		精神保健福祉士		MSW(再掲)		PSW(再掲)	
興味ない	20	10.2	8	8.8	6	9	5	16.7	1	6.7	6	25.0
興味ある	161	82.1	77	84.6	56	83.6	22	73.3	14	93.3	16	66.7
その他	15	7.7	6	6.6	5	7.5	3	10.0	0	0.0	2	8.3
計	196	100.0	91	100.0	67	100.0	30	100.0	15	100.0	24	100.0

(3) 医療ソーシャルワーカー及び社会福祉士については、その固有の専門性を明らかにしていく作業が必要であるとともに、これらの作業を研修や研究の中で行っていく必要性があることが示唆された。

(4) 各資格・職種とも、臨床心理学やカウンセリング等対人援助に関する知識・技能を高めたいという研修ニーズがあることがわかった。

(5) また、医療・保健・社会福祉の制度や施策に関する最新の情報を得たいというニーズも明らかとなった。

(6) 研修形態としては、事例研究やロールプレイなどの、利用者に対する対処方法や効果的な援助方法を検討したいという問題解決指向型の形態を望んでいることがわかった。

(7) 山口県立大学に対しては、各資格・職種とも自らの実践課題について質の高い研修・研究したいというニーズがあった。

(8) 医療ソーシャルワーカーは、精神保健福祉士の資格を取得したいと望んでいることが顕著であった

(9) 医療ソーシャルワーカーが山口県立大学大学院でキャリアアップのために何らかの教育研修を受けることに高い関心を示しており、何らかの形で答える必要性が示唆された。

(10) 関心のある山口県立大学院の研究教育内容としては、高齢者・障害者を中心とした地域ケ

アに関するものが多く、これらの分野の教育研究が望まれている。

なお、本調査にご協力いただいた山口県社会福祉士の重岡修、山口県看護協会保健師職能委員会の滝川洋子、山口県精神保健福祉士会の永本隆の各氏に深謝いたします。また本研究は、2002年度山口県立大学研究創作活動助成事業の助成金を受けたものである。

【文献】

- 1) 大橋謙策：社会福祉基礎構造改革と人材養成の課題—地域自立生活支援とコミュニティ・ソーシャルワーカー。社会福祉研究，77：18 - 25(2000)
- 2) 平野方紹：社会福祉基礎構造改革における福祉専門職養成の方向性。社会福祉研究，77：26 - 35(2000)
- 3) 堀越由紀子：資格取得後ないし現任者となつてからの継続研修—その意義と今日的動向—。社会福祉研究，77：36 - 43(2000)
- 4) 大阪市立大学生生活学部人間福祉学科社会福祉学研究室：[社会福祉従事者の実践と意識に関する全国調査 [社会福祉士・介護福祉士の課題と展望]。大阪市立大学生生活学部人間福祉学科社会福祉学研究室：40-41(1996)
- 5) 京極高宣：福祉専門職制度10年の評価と課題—ソーシャルワーカー資格を中心に—。社会福祉研究，77：42 - 49(2000)

表13. 興味・関心のある山口県立大学大学院の2001年度の教育研究分野

単位：人、%

教育研究分野	全体	社会福祉士	保健師	精神保健福祉士	MSW(再掲)	PSW(再掲)
地域における保健・福祉・福祉の連携に関する研究	104 ①53.9	50 ①55.6	32 ②48.5	21 ①87.7	10 ①71.4	16 ①69.6
介護保険とケアマネージメントについて	51 26.4	33 36.7	11 16.7	3 9.7	7 ②50.0	3 13
高齢者の保健・福祉に関する研究	56 29.0	32 35.6	15 22.7	5 16.1	5 35.7	5 21.7
障害者の家族の心理・社会的問題の研究	67 ③34.7	33 36.7	16 24.2	14 ③45.2	6 ③42.9	14 ③60.9
日本とドイツの障害者・老人福祉の比較研究	17 8.8	8 8.9	6 9.1	1 3.2	1 7.1	1 4.3
在宅ケア(ケアマネージメント)および施設ケアに関する研究	50 25.9	34 ③37.8	10 15.2	4 12.9	6 ③42.9	3 13
ソーシャルワークにおける援助関係論に関する研究	75 ③38.9	42 ②46.7	14 21.2	15 ②48.4	8 ①57.1	14 ③60.9
社会福祉教育に関する研究	23 11.9	20 22.2	1 1.5	0 0	2 14.3	1 4.3
家族のヘルスケア機能に関する研究-母親の育児・家族の健康管理機能に対する支援を中心に-	48 24.9	12 13.3	28 42.4	6 19.4	2 14.3	4 17.4
開発途上国における国際的看護、小児看護、学習過程における相互教育の効果について	9 4.7	8 8.9	1 1.5	0 0	0 0	0 0
行動変容に関する基礎的及び臨床的研究	66 34.2	24 26.7	36 ①54.5	8 25.8	4 28.6	3 13
心身の健康増進に関する心理学的研究	56 29.0	19 21.1	30 ③45.5	4 12.9	4 28.6	2 8.7
ユング心理学に基づききこころを病むということの意味について新しい角度から考察する	52 26.9	30 33.3	13 19.7	8 25.8	4 28.6	6 26.1
高齢者の心の健康に影響する心理社会的要因に関する研究	60 31.1	34 ③37.8	20 30.3	9 29	7 50	5 21.7
スポーツ外傷・障害と関連する心理社会的要因についての研究	12 6.2	5 5.6	3 4.5	1 3.2	2 14.3	0 0
社会変化と生活問題発生構造の史的研究	21 10.9	12 13.3	6 9.1	3 9.7	2 14.3	2 8.7
社会福祉実践およびソーシャルワークの社会的意義と効果についての史的研究	30 15.5	17 18.9	1 1.5	9 29	5 35.7	10 43.5
医療、年金、介護保険など社会保障の全体の姿や構成原理、財政、歴史などの研究	47 24.4	29 32.2	7 10.6	7 22.6	7 ②50.0	8 34.8
現代の経済社会が直面している変化と社会保障のあり方の研究	31 16.1	20 22.2	6 9.1	4 12.9	5 35.7	9 ②64.3
明治以降現在までの社会構造の変化と性役割の変化の分析	11 5.7	4 4.4	6 9.1	1 3.2	1 7.1	1 4.3
地域社会における家族の変容や家族構成員の役割変容の分析	41 21.4	18 20	19 29.2	4 12.9	2 14.3	2 8.7
現在の福祉観や福祉意識の分析	46 23.8	28 31.1	7 10.6	4 12.9	5 35.7	6 26.1
精神発達、特に発達期における空間や対象などの実在認識発達に関する研究	36 18.7	9 10	19 28.8	6 19.4	3 21.4	4 17.4
子どもや成長・発達をめぐる臨床的課題に関する研究	46 23.8	16 17.8	23 34.8	3 9.7	5 35.7	2 8.7
地域社会における住民の生活構造と生活問題の実証的研究	43 22.3	31 34.4	9 13.6	3 9.7	5 35.7	4 17.4
過疎農山村社会における地域福祉構造に関する研究	20 10.4	14 15.6	3 4.5	1 3.2	1 7.1	1 4.3
青少年の発達過程を支えるケアリードの関係に関する研究	24 12.4	14 15.6	9 13.6	3 9.7	2 14.3	1 4.3
青少年の福祉・教育施設における援助・指導のあり方について	20 10.4	15 16.7	5 7.6	2 6.5	3 21.4	0 0
子どもの「精神的自由権」に関する実践的研究	21 10.9	11 12.2	4 6.1	3 9.7	5 35.7	3 13

丸付き数字は上位3番目までの順位を示す

- 6) 岡本民夫：福祉職員－研修のすすめ方．48-59，全国社会福祉協議会，東京(1988)
- 7) 社会福祉法人奈良県社会福祉協議会編：ワーカーを育てるスーパービジョン－よい援助関係をめざすワーカートレーニング．16-27，中央法規出版，東京(2000)

Summary

A Study on Practical Education and Training for Social Worker and Public Health Nurse

This study examined contents of a practical education and graduate school education. Investigation by the questionnaire method was undertaken for certified social workers, certified psychiatric social workers, public health nurses, medical social workers and psychiatric social workers in 2002. The results are fol-

lows. Each professional acquires knowledge and skills participating in some workshop etc. Certified social worker and Medical social worker have to clarify an original professional-ness through studied etc. Each professional hopes that he acquires knowledge and skills about human supporting for example clinical psychology and counseling and latest information on the medical, public health and social welfare system. Medical social workers hope that they acquire the qualification of the certified psychiatric social workers in Yamaguchi Prefectural University. Medical social workers are interested in Graduate School of Yamaguchi Prefectural University very much. And there study and research on care for the elderly and person with handicap is hoped.